

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 7 週(2 月 9 日～ 2 月 15 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

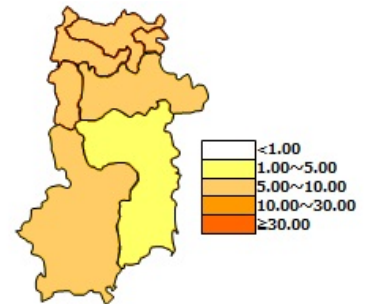
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	5.76	(11.07)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	4.56	(5.71)	→	→	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.94	(1.26)	↘	↘	→	→
4	RS ウイルス感染症	0.68	(0.97)	↘	↓	↘	↘
5	手足口病	0.44	(0.29)	↗	↓	↑↑	↘

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

全保健所管内でインフルエンザ警報レベル終息基準値である 10 を下回り、警報は解除になりました。例年よりも早い減少傾向にあります。近隣府県も同様に減少傾向にあります。今シーズンは A 香港型が流行していますが、B 型インフルエンザの報告も出てきましたので今後も注意が必要です。引き続き外出後の手洗い、うがいをこまめに行い感染予防に努めましょう。インフルエンザにかかった場合は、安静にして水分や栄養補給をし、周りの方への感染防止のためマスクの着用を心掛けましょう。RS ウイルス感染症は報告数が下がりましたが、例年より高い水準で推移しています。

感染性胃腸炎はやや減少しました。例年より低く推移しています。伝染性紅斑の報告が奈良市、郡山、葛城、内吉野保健所管内であり、県全体でやや増加傾向にあります。また、葛城保健所管内で季節外れの手足口病の小流行があります。これらの疾患の動向にも注視する必要があります。



インフルエンザ
保健所別定点当たり報告数

マスクを着用する

マスクをする

くしゃみや咳が出ている間はマスクを着用し、使用後のマスクは放置せず、ごみ箱に捨てましょう。
 マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、あごの部分が出たりしていると、効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。

<正しいマスクの着用>

鼻と口の両方を確実に覆う → ゴムひもを首にかける → 隙間がないよう鼻まで覆う

口と鼻を覆う	すぐに捨てる
<p>ティッシュやぞうちん、口の鼻を覆う</p> <p>周囲にかからないよう顔をぞらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆う</p>	<p>鼻を付けたティッシュはすぐにゴミ箱に</p> <p>口と鼻を覆ったティッシュは、すぐにごみ箱に捨てましょう。</p>
周囲の人からなるべく離れる	こまめに手洗い
<p>他の人から顔をそらす</p> <p>くしゃみや咳の飛沫は、1～2メートル飛ぶと言われています。</p>	<p>石けんを水でよく洗う</p> <p>くしゃみや咳などを押さえた手から、ドアノブなど周囲のものにウイルスを付着させたりしないために、インフルエンザに感染した人もこまめな手洗いを心がけましょう。</p>

◆ 定点把握感染症報告状況 ◆

平成 27 年 第 7 週 2 月 9 日 ~ 15 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	311 (5.76)	62 (5.64)	85 (5.31)	74 (6.73)	72 (6.55)	12 (6.00)	6 (2.00)	
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	23 (0.68)	3 (0.43)	5 (0.50)	12 (1.71)	2 (0.29)	1 (1.00)		
咽頭結膜熱	3 (0.09)		3 (0.30)					
A群溶連菌咽頭炎	32 (0.94)	9 (1.29)	8 (0.80)	3 (0.43)	10 (1.43)		2 (1.00)	
感染性胃腸炎	155 (4.56)	36 (5.14)	48 (4.80)	25 (3.57)	33 (4.71)	5 (5.00)	8 (4.00)	
水痘	14 (0.41)		10 (1.00)	1 (0.14)	3 (0.43)			
手足口病	15 (0.44)	1 (0.14)		5 (0.71)	8 (1.14)		1 (0.50)	
伝染性紅斑	10 (0.29)	2 (0.29)	5 (0.50)		1 (0.14)	2 (2.00)		
突発性発しん	8 (0.24)	4 (0.57)	1 (0.10)	2 (0.29)	1 (0.14)			
百日咳								
ヘルパンギーナ								
流行性耳下腺炎	9 (0.26)	2 (0.29)	6 (0.60)		1 (0.14)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎	2 (0.22)			2 (1.00)			-	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								-
無菌性髄膜炎								-
マイコプラズマ肺炎								-
クラミジア肺炎								-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2 (0.33)	1 (1.00)					1 (1.00)	-

◆ 全数把握感染症報告状況 ◆ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核 6件(奈良市 1、郡山 2、桜井 1、葛城 2)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病 1件(奈良市 1) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件(奈良市 1)

◆ 第 7 週のトピックス ◆

◆ ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関について(厚生労働省HP)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/index.html

◆ 第3回奈良県肝炎対策推進協議会(県庁保健予防課HP)

<http://www3.pref.nara.jp/hodo/dd.aspx?itemid=49192#itemid49192>

◆ 葛城保健所と桜井保健所は統合して「中和保健所」になりました。(中和保健所HP)

<http://www.pref.nara.jp/1733.htm>

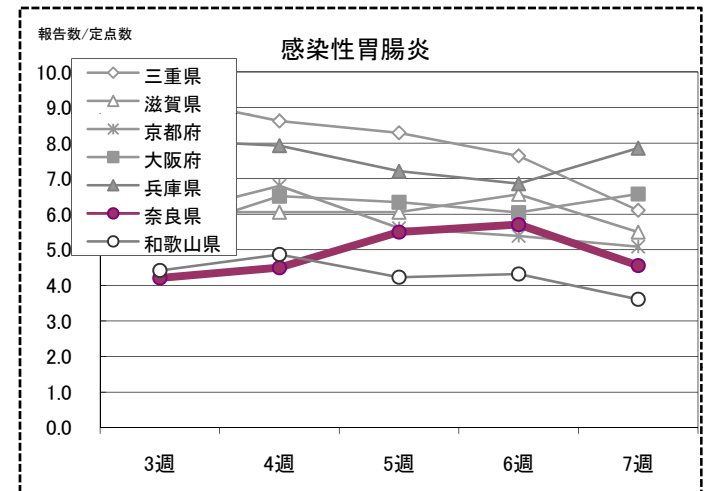
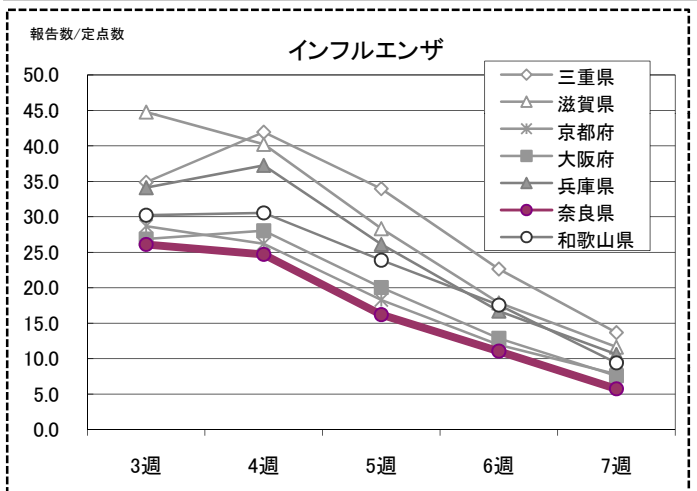
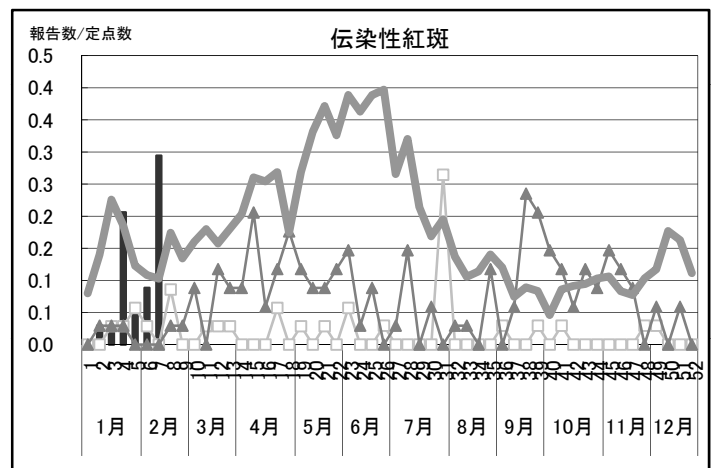
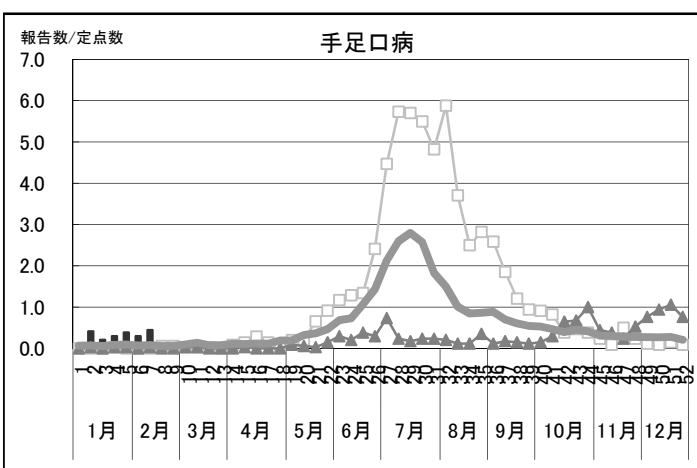
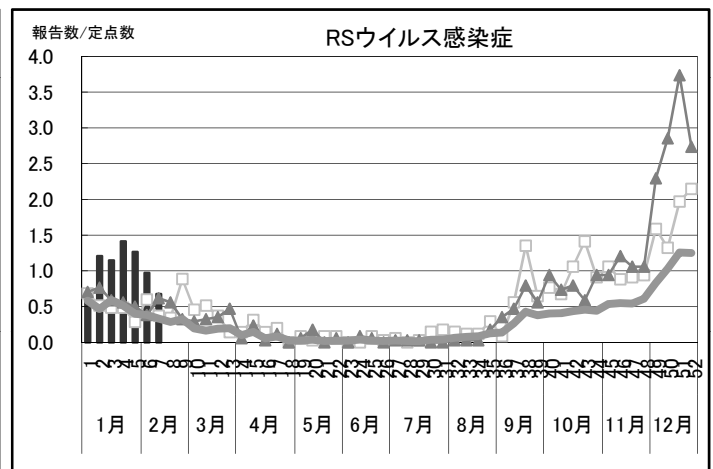
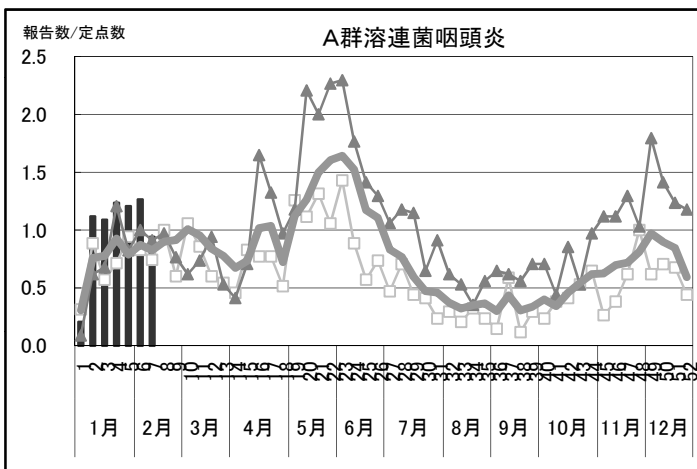
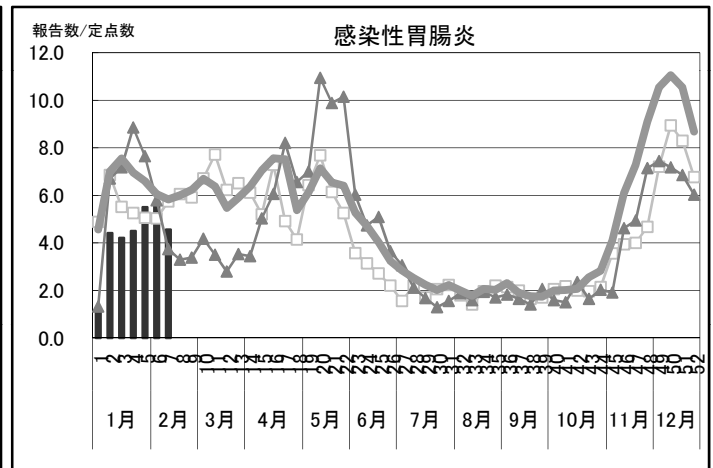
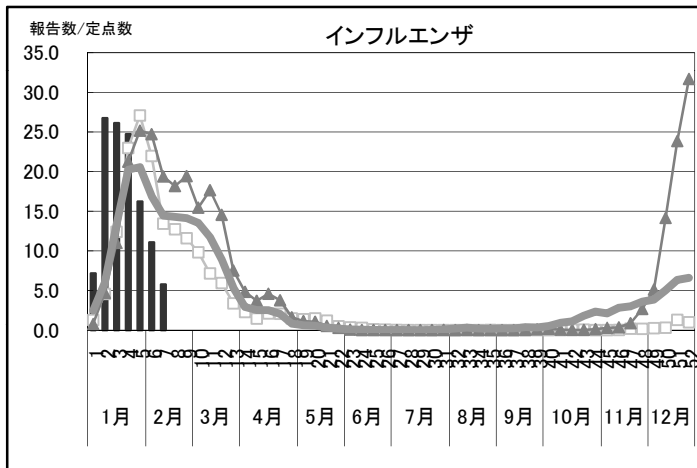
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数 ÷ 定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男		1	11	10	6	9	10	10	10	5	11	30	10	5	11	7	7	5	4	1	163	3151
	女			3	7	6	12	7	10	8	13	7	23	10	5	8	11	9	3	3	3	148	3209
RSウイルス感染症	男		9	2	2	1	2															16	127
	女	1	1	2	2	2	1															7	123
咽頭結膜熱	男		1				1															2	33
	女				1																	1	13
A群溶連菌咽頭炎	男	1			2	2	1	6	5	1	5											23	137
	女				1	1			1	3	1			1	1							9	103
感染性胃腸炎	男	1	3	11	9	7	5	8	6	3	8	3	7	2	10							83	533
	女	1	2	7	7	14	6	4	2	2	3	3	5	2	17							72	491
水痘	男	1		1	2		2				1			1								8	56
	女	1	1	1		2	1															6	56
手足口病	男			3	3	2		1	1													10	40
	女				1		2	1	1													5	31
伝染性紅斑	男				1		1			2	1			1	1							4	12
	女						2															6	12
突発性発しん	男		3	1																		4	41
	女		3	1																		4	35
百日咳	男																						1
ヘルパンギーナ	男																						1
流行性耳下腺炎	男							1					2	1								4	17
	女				1			1	3													5	26
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男															1						1	9
	女																				1		15
細菌性髄膜炎	男																						2
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						2
	女																						4
クラミジア肺炎	男																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男		1																			1	8
	女			1																		1	4

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H27 ▲ H26 □ H25 〻 過去10年平均



～今シーズンのRSウイルス感染症について～



<患者報告数の推移>

全国的にRSウイルス感染症はこれまで冬期に報告数のピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、2011/2012シーズン以降は早い時期から報告数が増加しています。

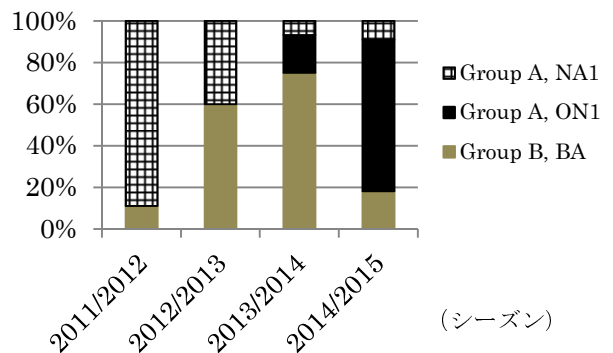
奈良県の今シーズン（2014年8月以降）の報告数も、9月初旬の第36週（9/1-7）から増加し始め、第51週（12/15-21）が最も多く、第7週ではピークを越えたものの定点当たりの患者報告数は0.68人とやや多い状況です。特に桜井保健所管内や郡山保健所管内で報告数が多くなっています。

<ウイルス検査報告>

昨年の“保健研究センター10月だより”では、2013年の9月から11月中頃に中部地域の医療機関から提供された検体で、これまで検出していなかった**変異型ウイルス:ON1**を検出したことについて報告しました。

（ON1はRSウイルスA型の亜型であるNA1の遺伝子変異型で、近年報告され始めている型です。）

図は、その後の調査を含めたシーズン別の遺伝子型分類を示すものです。ON1に注目すると、初めて検出した2013/2014シーズンでは陽性数全体で占める割合は18%でしたが、その後の2014/2015シーズンには**73%に拡大**していました。しかし、プロトタイプNA1（野生型）も少数ながら検出しており、全てがON1に入れ替わったわけではありませんでした。



(図) RSウイルスのシーズン別遺伝子型解析

(表) ON1の患者情報

今シーズンに検出した8株の変異型ON1の患者情報を表にまとめました。臨床診断はRSウイルス感染症が7件、気管支炎が1件です。患者は全て3歳児以下で、症状は全員が下気道炎を呈し、一部では細気管支炎

採取日	年齢	発熱(°C)	症状
10/27	1歳1ヶ月	39.1	下気道炎(肺炎)、脱水、入院あり
10/27	0歳1ヶ月	38.3	下気道炎(肺炎)
11/7	0歳10ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/11	3歳3ヶ月	38.5	下気道炎(気管支炎)
11/14	2歳6ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/17	0歳11ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/25	0歳1ヶ月	36.7	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(細気管支炎)、入院あり
12/10	0歳9ヶ月	38.5	下気道炎(気管支炎)

や肺炎の診断で入院した患者もいました。NA1やBAでは上気道炎症状のみで軽症の場合もあることから、現在までのところ、ON1の方が重症例がやや多い印象があります。患者検体は、奈良市保健所、郡山保健所および葛城保健所管内から提供されたもので、奈良県北部および中部地域で流行していたことが分かりました。

今後、この変異型ON1が定着し全てのA型がON1に置き換わるかどうかについては、さらに調査を続けるとともに、従来のウイルスと臨床的な差異があるか否かについての検討も必要であると考えています。

(ウイルス・疫学情報担当)